

企業参入による取組事例 [福島県白河市]

1. 地域農業の状況

○ 白河市は、那須連峰を臨む福島県の南部中央に位置し、東京都心まで185kmの距離にある。

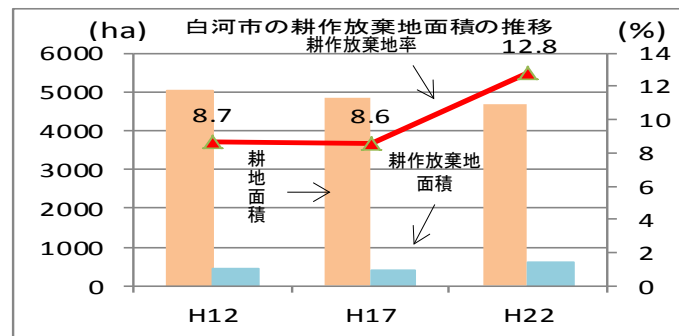
市域は、東西南北ともに約30km広がり、総面積305.3km²となっており、約半分を山林が占めている。



○ 地域農業の形態は稲作経営が主体だが、水田の持つ高い生産能力を活用しながら水稲＋野菜（トマト・キュウリ）といった複合経営に取り組んでおり、春秋のブロッコリーの栽培も盛んである。

現在、平成23年に発生した東日本大震災による原発事故の影響で、農作物の風評被害が払拭されておらず、農家の経営状況は大変厳しい状況にある。

○ 管内の農地は、農家の後継者不在や農業の兼業化に伴い、耕作放棄地が増加傾向にある。



資料：農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体 (株)吉野家ファーム福島

地区名 表郷（おもてごう）地区

再生面積 1.76ha（経営面積12ha）

取組年次 平成25年～平成26年

作付作物 白菜・タマネギ等

販路 (株)吉野家等に販売

(1) 耕作放棄地に着目しての営農参入

○ (株)吉野家は、タマネギ、キャベツ、白菜、青ネギ等についてグループ企業内での生産・供給を目的に、平成25年10月に農業生産法人(株)吉野家ファーム福島を設立し、白河市表郷地区で、後継者不足や農地所有者の兼業化に伴い耕作放棄されていた農地を再生し活用することとした。

(2) 耕作放棄地の活用と雇用の拡大

○ グループ会社である(株)吉野家等への食材提供を目的に、耕作放棄地を積極的に活用するなどして白菜、タマネギ等を栽培し、水田では多収稲米の「みつひかり」を平成26年度から本格的に導入するなど、栽培技術の確立を図りながら安定供給に取り組んでいる。

○ 平成26年度は、社員13名、パート1名を雇用しており、水田5ha、畑7haで耕作を行い米35t、野菜267tの収穫・出荷を見込んでいる。

○ 今後の経営面積は、水田50ha、畑10haを目標としている。



再生作業



作物の管理状況



キャベツの作付状況

活用した支援策

H25～H26 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業、土壌改良、冷蔵庫)